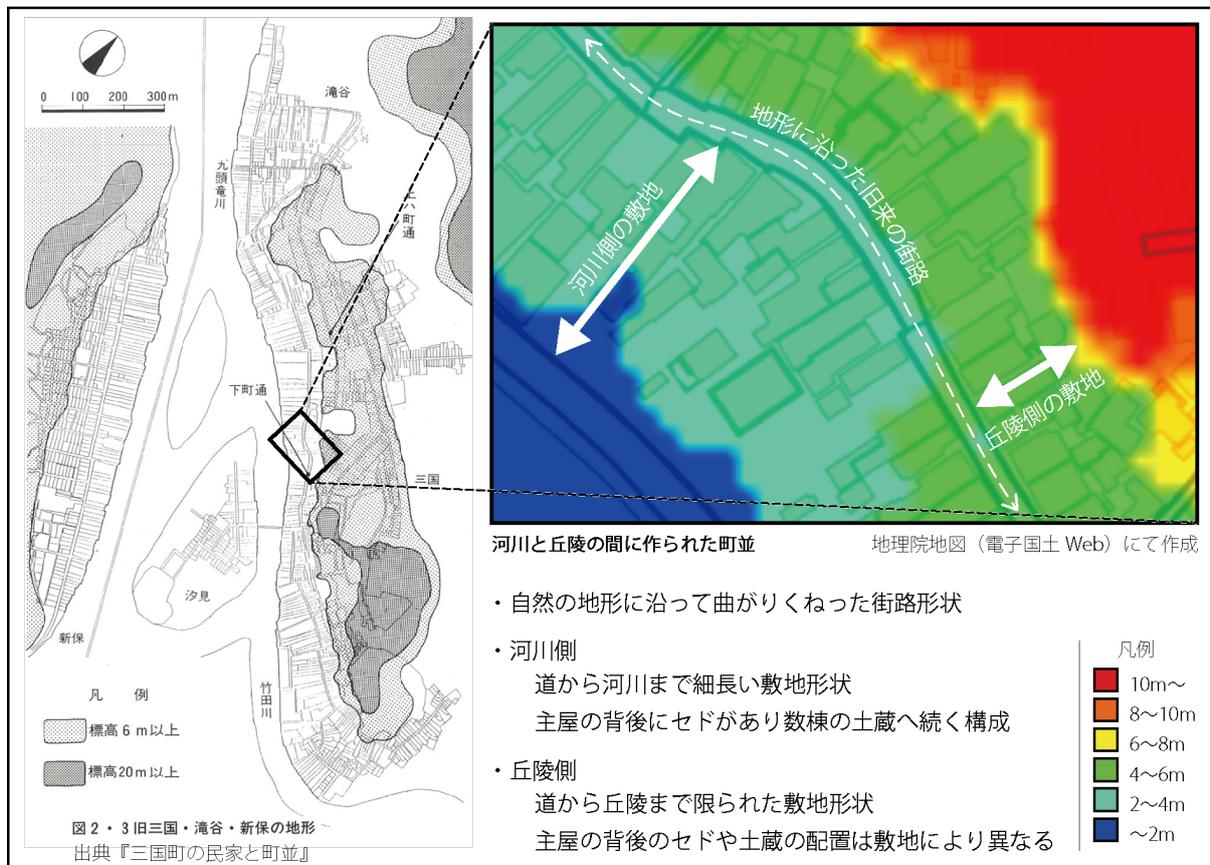


1 章 三国湊の町の成り立ち

1. 町の成り立ち

1) 町の起源と地形

三国湊の起源は必ずしも明確ではありません。1297年に三国湊の記載がみられるなど、古くから荘園年貢の積出港として成立していた集落であると考えられています。中世末には上ミ町、中町、元町、大門、上西あたりに、集落が発展していたと考えられています。この辺りは河川と丘陵に挟まれた場所であり、自然地形に沿って湾曲した街路空間が形成されています①。湾曲した街路沿いの敷地を見てみると②、道を挟んだ河川側では河川まで続く細長い敷地が連なり、主屋→セドと続き、複数の土蔵が立ち並び、河岸のコウドに至ります。丘陵側では街路から丘陵までの距離が一定ではないため、主屋→セドと続いたあとの土蔵の位置は各戸で異なってきます③。





① 自然の地形に沿って湾曲した街路に町家が並ぶ町並み



② 河川側の敷地形状の例



③ 丘陵側の敷地形状の例

POINT

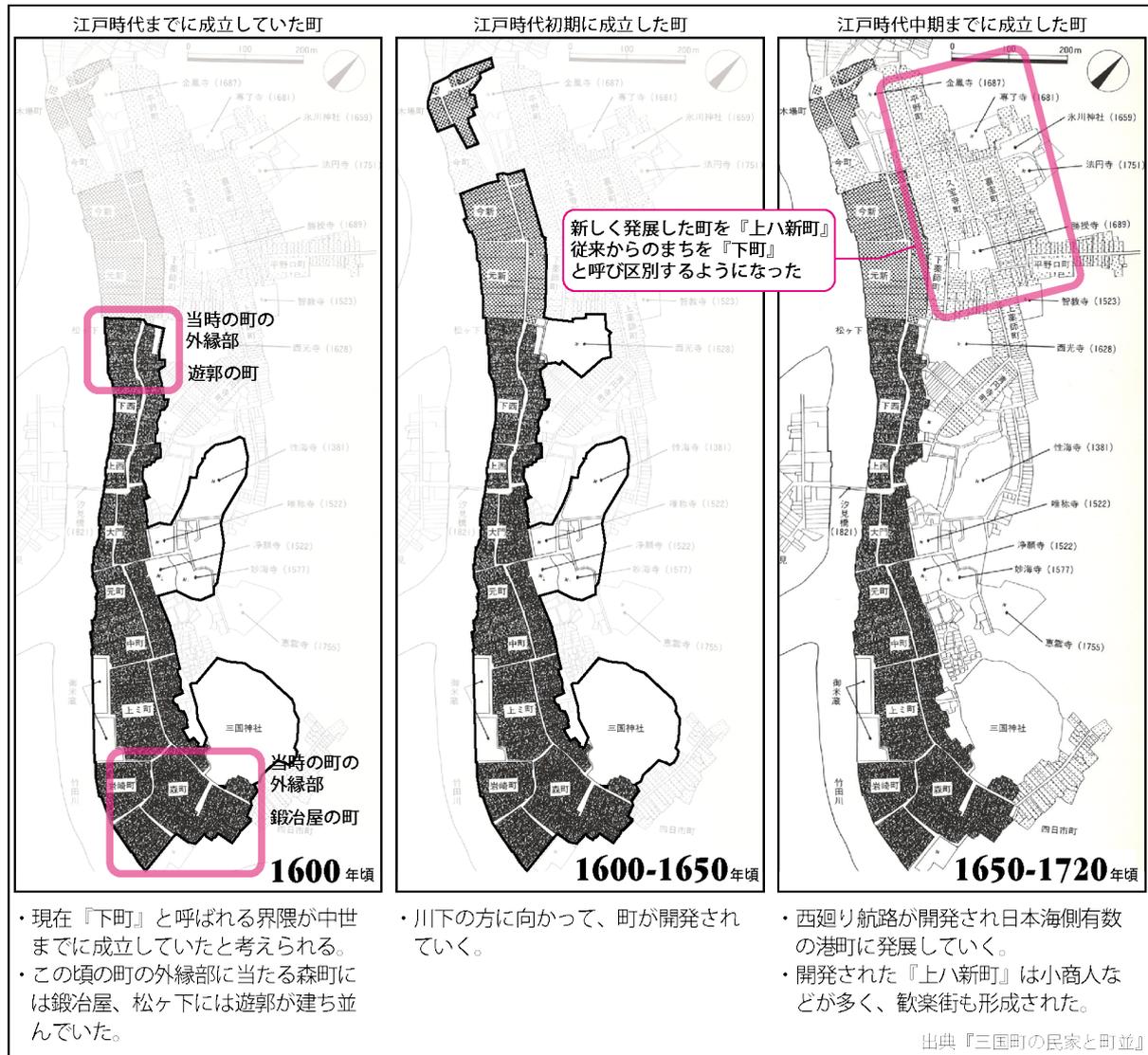
- ▶ 河川と丘陵に挟まれた場所に町ができたことから、自然の形状に沿った街路形状となっています。碁盤の目状の町並みとは異なる、三国湊独自の町並みが形成されています。
- ▶ 間口が狭く、奥行きが長いというのが基本的な敷地形状の特徴です。道を挟んで河川側と丘陵側では敷地の長さが違うため、セドや土蔵の配置の仕方が異なります。

2) 町の発展

江戸時代に入り、三国湊の町は徐々に川下（下図の上側）へ開発され発展してきました

①。さらに江戸中期ごろになると丘陵側へと開発が進み、上ハ新町と呼ばれる新市街地が形成されてきました。従来の町は自然地形に沿うように整備されていきましたが、これらの町の町割は直線・直行状に整備されたため、同じ三国湊の町でも異なる街路形状をしています。

また、従来からの町を下町と呼び区別するようになってきます。



- ・現在『下町』と呼ばれる界隈が中世までに成立していたと考えられる。
- ・この頃の町の外縁部に当たる森町には鍛冶屋、松ヶ下には遊郭が建ち並んでいた。

- ・川下の方に向かって、町が開発されていく。

- ・西廻り航路が開発され日本海側有数の港町に発展していく。
- ・開発された『上ハ新町』は小商人などが多く、歓楽街も形成された。



① 江戸時代初期に成立し、直線状に町割された町の様子

POINT

- ▶ 自然の形状に沿った街路形状から、時代を経て町が発展していった場所では直線状の町割で整備されるなど、地区による町割の違いも大切な三国の特徴です。
- ▶ 町の外縁部が拡大することによって歓楽街が移り変わるなど、町が発展とともに地区の様子も移り変わってきています。

3) 町の近代化

明治期に入ると滝谷が開港し、港湾機能がより川下側へ移ることとなり、町の賑わいの中心も移っていきました。三国湊の最盛期は江戸時代よりも、藩の規制がなくなった明治に入ってから、鉄道開通により物流手段が変更になる明治後半までの間とされています。

1911年（明治44年）三国駅の開業により町の中心は駅の周辺へと移り、物資輸送も海運から鉄道へと変化しました①。さらに、護岸道路が整備されたことにより、河川と敷地が分断され土蔵やコウドといった荷出しに必要だった要素が姿を消していきました②。

さらに戦後は旧来の市街地の外側に住宅地が拡大していったことで、少子高齢化が進み空き家・空き地が増加していることが課題となっています。



① 駅前通りの町並み



② 護岸通り（かもめ通り）の様子

POINT

- ▶ 河川沿いに道路が敷設されたことにより、建物と水辺との関係がなくなりました。荷出し用の土蔵も必要なくなったため、多くが取り壊されてしまっています。河川の向こう岸から眺める三国湊らしい風景をどう残していけるかが課題です。
- ▶ 堤防ができてしまったため、町から河川が見えにくくなり、水を感じることができなくなりました。一方で、土蔵が無くなったことで、主屋のザシキから河川までの視線が抜け、屋内から河川を眺めることができる家もあります。
- ▶ 三国の町のより郊外へと人口が移り、町の空洞化が進行しています。

2. 町並み保全の取組み

1976年- 三国町郷土資料館の展示資料・町並模型作成のための調査

この時はまだ、「かなり数多くの店舗が今でも立ち並んでおり」と記載されており、「昔からの問屋業の名残はむしろ少なく、殆どが日常的な商品を扱う小売業である」とあることから、賑わいのある町並みが維持されていたことが想像されます。

一方で、報告書に記載のある三国湊地区の35の建物のうち、改修されたものも含めて現存しているのは13棟のみである。昭和末から平成にかけて多くの建物が壊されてきたことが予想されます。

1993年- 旧森田銀行本店の保存運動

旧森田銀行本店は大正9年に建設された福井県内に現存する最古の鉄筋コンクリート造建築物です。平成5年、それまでまちづくりに取り組んでいた住民等が取り壊しの工事のために足場がかかっているのを目撃し、その日のうちに旧三国町へ直談判に向かい、町が買い取ることが決定されました。詳細な調査の後、復元保存工事が行われ、平成11年7月に三国町の文化遺産として開館しました。展示やコンサートなどの催しにも利用されており、地元の人から観光客まで多くの人々に親しまれています。



旧森田銀行本店

POINT

- ▶ 三国湊の町並みに危機感を感じていた住民が、旧森田銀行に取り壊しの足場がかかったのを目の当たりにし、すぐさま行動に移されたことが、三国湊の町並み保全の取組みの起源です。

3. 近年の町家改修等の取組み

旧森田銀行本店の保存、改修工事が行われたことで、三国湊の町家の改修保存の取組みが進んでいきます。以下に大まかな流れを示しましたが、これ以外にも様々な活動団体や住民一人一人の活動によって、現在の三国湊の町並みが整備されてきました。

2004年- 三国湊魅力づくりプロジェクト

旧三国町が譲渡を受けて「旧岸名家」と「三国湊町家館」が改修されました。福井県地域ブランド創造活動推進事業の助成を受け「三国湊魅力づくりプロジェクト実行委員会」が発足し、指定管理者となりました。これらの通りに「ジェラート・カルナ」や「三国湊座」が誕生します。



三国湊町家館



旧岸名家



CARNA / カフェ タブノキ



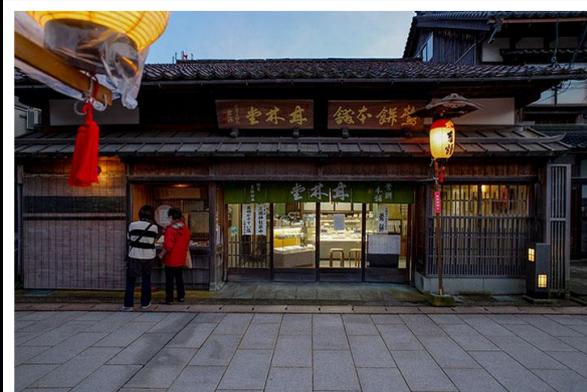
三国湊座

2005年- 街なみ環境整備事業

平成16年に街なみ環境整備事業計画を策定し、平成17年度より地区施設の整備や住宅・店舗等の景観整備補助、道路の美装化やサイン整備等を行っています。



街路の美装化



ファサードの修景助成



ファサードの修景助成

2013年- 三国湊町家活用プロジェクト

坂井市と（一社）三國會所により「三国湊町家活用プロジェクト」が開始されます。
2013-15年の3年間で6棟の町家の改修・再生が実施されました。



詰所三國



マチノクラ

下新公園



みくに園 三国湊店

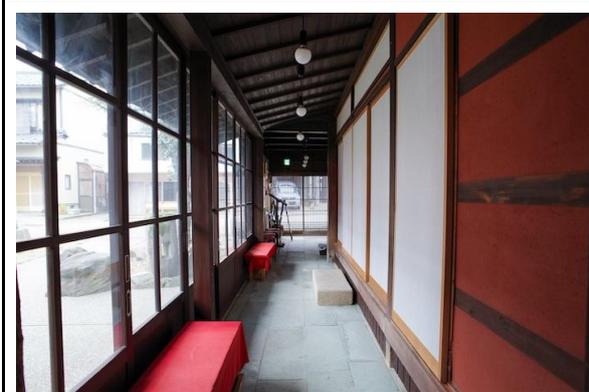
ことこと koto.koto.

2018年- アーバンデザインセンター坂井 (UDCS)

2018年4月に築100年以上の古民家を改修し、公・民・学の連携によるまちづくりの拠点「アーバンデザインセンター坂井 (UDCS)」がオープンしました。2019年には裏に残っていた土蔵を改修した新施設『くららぼん』がオープンしました（福井県・福井ふるさと茶屋整備支援事業補助金を活用して実施）。



アーバンデザインセンター坂井 (UDCS)



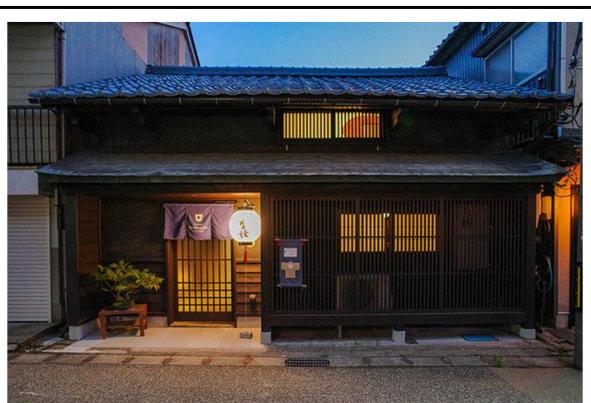
アーバンデザインセンター坂井 (UDCS)



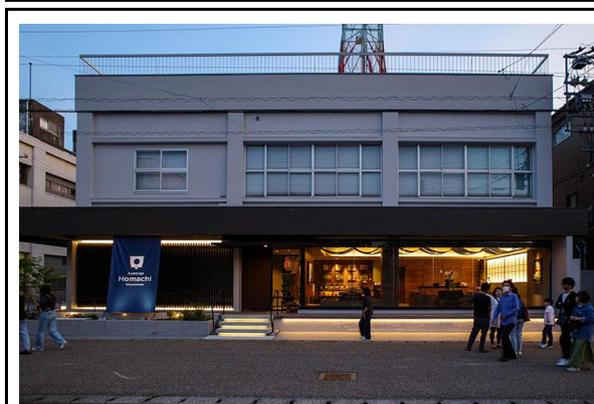
くららぼん

2013年- オーベルジュほまち 三國湊

NTT 西日本を中心に地元有力企業が「Actibase ふくい」を立ち上げ、10棟の町家を宿泊施設に改修、計18室を設け、町の中心にあるNTT局舎を宿泊フロントとしてリニューアルすることで、分散型ホテルが整備されました。



宿泊棟



フロント



タテルヨシノ三國湊 (レストラン)